

実践的な体験 進路選択に

横須賀市内の中学校が、職業に関する知識や技能を学ぶ「よこすかキャリア教育推進事業」を展開している。実践的な職業体験を通して、自分自身で積極的な進路を選択する能力を備えさせることが狙いだ。

(光尾豊)



「温かいさつま汁、いかがですか」「ポテトチップス、おいしいですよ」。横須賀市稲岡町の三笠公園で11月8、9日に開かれた「よこすか産業まつり」の会場の一隅で、市立長沢中の生徒たちが声を張り上げた。1年生133人が参加。店先に立つ担当者ら以外に、のぼりを持ってPRして回る生徒らもいた。

同事業は市教委や横須賀商工会議所などが連携して、2008年度にスタート。今年度は、同事業の支援対象が市内の全中学校23校に広がった。

長沢中は「畑から社会へ」をテーマに数年前から、総合的な学習の時間を活用し、サツマイモの生産(1次産業)、加工(2次産業)、販売(3次産業)を一貫して行う「6次産業」の職業体験を実施している。

産業まつりでは、生徒たちが

サツマイモ栽培 * 産業まつりで販売

横須賀の中学校



さつま汁を販売した長沢中の生徒たち (11月8日、横須賀市の三笠公園で)

校内の畑で収穫したイモで「さつま汁」と「サツマイモチップス」(いずれも税込み100円)を作って販売し、2日間で計約20万円を売り上げた。

店では会計、販売、宣伝など生徒たちの役割はあるが、忙しい時は役割以外の仕事も臨機応変に手伝う。販売担当の亀谷海斗君(12)は「ものを売って、お客さんからお金をもらうのはすごいこと」と気付いた。

サツマイモを育てた畑は約660平方メートル。同校は市の郊外にあるが、ほとんどの生徒は農作業の経験がない。地域住民やPTAの協力を得て、6月に種芋を植え、夏休みの水やりや草取りも交代でこなした結果、10月には約3000キログラムを収穫することができた。さつま汁の作り方は、商工会議所を通じて市内の居酒屋から指導を受けた。産業まつりで調理を担当した白川萌佳さん(12)は「野菜の切り方にもいろんな方法があると知った」と感謝する。

総合的な学習を担当する松永知子教諭(35)は「班割りをし、与えられた仕事を協力してやっていくなかで、生徒たちに自覚が芽生えた。職業体験を通じて畑や学校を大切にしようになった」と話している。